



決算補足説明資料

2020年12月期

西本Wismettacホールディングス株式会社

2021年2月12日

- 2020年12月期 通期決算概要 P. 2
- 2021年12月期 業績予想 P. 6
- 株主還元の方針 P.11
- 会社概要 P.13

2020年12月期 通期決算概要



新型コロナウイルス感染症拡大に伴い外食産業向けで大幅減収に見舞われたものの、小売業態向け営業の健闘と経費圧縮により、営業利益は19億円、最終利益も10億円の黒字となった

- ◆ 売上高は、第3四半期以降、各国の規制緩和による外食産業の営業再開とテイクアウト・デリバリー形態へのシフト、さらに小売業態向けの好調維持により順調な回復をみせたが、累計では前期比▲7.8%の減収となった。
- ◆ 利益面も売上高の回復にともない、第3四半期以降は順調に推移し、累計で19億円の営業利益となった。
 - 新型コロナウイルス感染症拡大に係る対応として、上期に計上した貸倒引当金繰入額及びたな卸資産評価損（合計約17億円）のうち12億円を戻入している。

(単位：億円)

		2019年12月期	2020年12月期	
		通期実績	通期実績	前期比
業績	売上高	1,826	1,684	▲141
	売上総利益	321	294	▲26
	営業利益（政策経費除く）	51	41	▲10
	営業利益又は損失(△)	43	19	▲23
	経常利益又は損失(△)	45	17	▲28
	親会社株主に帰属する 当期純利益又は損失(△)	24	10	▲14
円ドルレート（期中平均）		109.05円	106.82円	▲2.23円
1株当たり当期純利益又は損失(△)		173.71円	70.80円	▲102.91円

アジア食グローバル事業は、第2四半期・第4四半期での営業規制強化等により外食産業向けの減収に伴い前期比で減益。農水産商社事業は中国における販売好調により、概ね前期と同水準となった

アジア食グローバル事業（以下、「GAF」）

- ◆ 売上高は、段階的な規制緩和とテイクアウト・デリバリー等への業態変化により、外食産業向けが緩やかに回復。小売業態向けはロックダウン解除後も好調を維持。累計で減収であるが、下期は香港、シンガポール、豪州、オランダ等で力強い回復がみられた。
 - ・ 北米地域は、前期比▲17.3%。
 - ・ 北米以外の地域は、前期比+36.4%（前期連結対象外のSSP・C3Cグループの計4社を除くと▲1.3%）。
- ◆ 利益面では、上期に計上した貸倒引当金繰入額及びたな卸資産評価損の戻入を含め、18億円の営業利益となった。
 - ・ 北米地域は、17.3億円の営業利益（前期は36.0億円の営業利益）。
 - ・ 北米以外の地域は、0.7億円の営業利益（前期は5.0億円の営業利益）。

農水産商社事業

- ◆ 売上高は、第3四半期に入り小売業態向けの青果販売が好調であったものの、外食産業の需要は回復が遅れ、前期比▲3.8%の減収となった。利益は、減収および販管費の増加により前期比▲10.7%(▲0.8億円)の減益となった。

（単位：億円）

		2019年12月期 通期実績	2020年12月期	
			通期実績	前期比
GAF	売上	1,288	1,168	▲119
	営業利益又は損失(△)	41	18	▲23
農水産商社	売上	498	479	▲18
	営業利益又は損失(△)	7	6	▲0
その他	売上	39	36	▲3
	営業利益又は損失(△)	1	1	▲0
調整項目	売上	-	-	-
	営業利益又は損失(△)	▲7	▲6	0
合計	売上	1,826	1,684	▲141
	営業利益又は損失(△)	43	19	▲23

連結貸借対照表（要約）

（単位：億円）

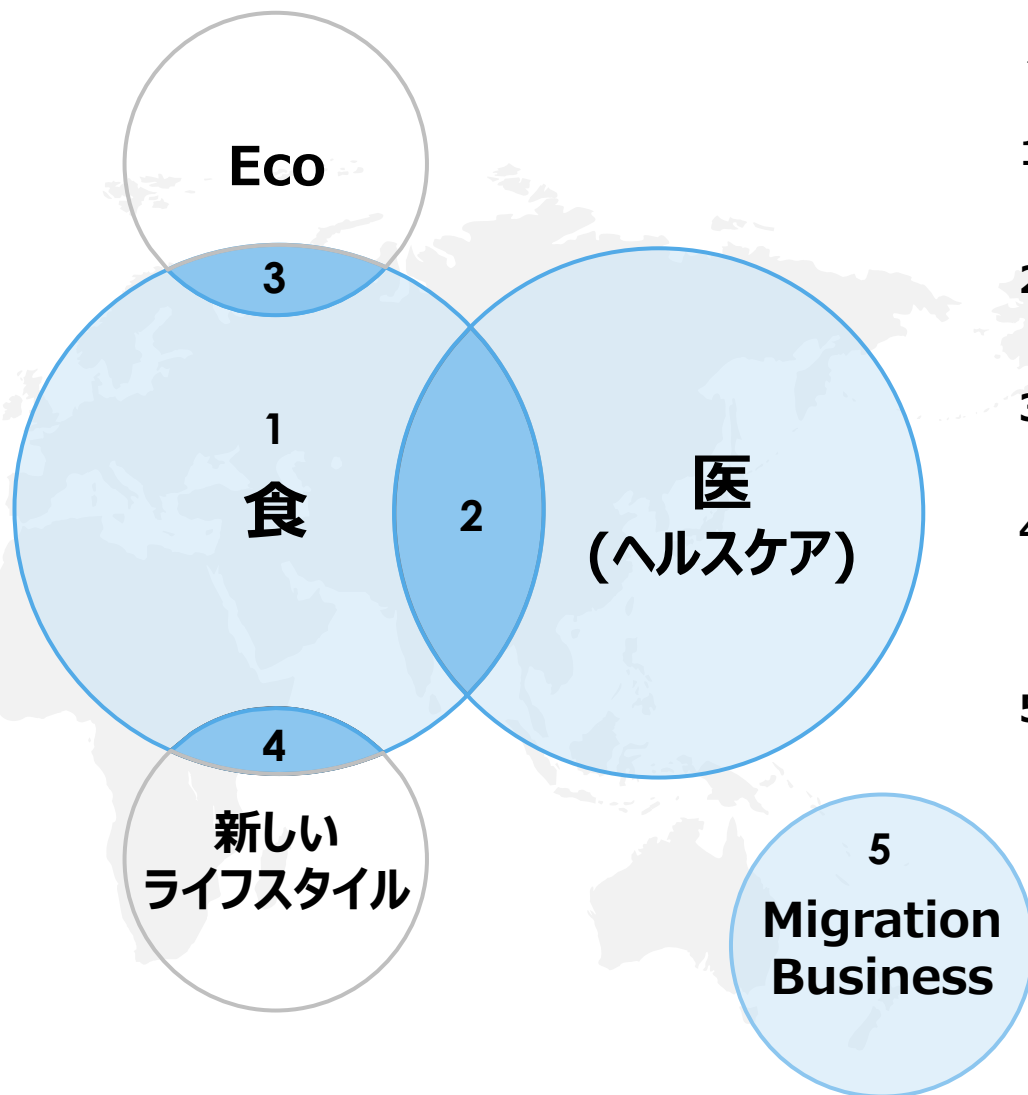
	2019年12月末	2020年12月末	増減額/率	主要な増減項目
流動資産	879	981	+101	現預金+135 売掛金▲8 たな卸資産▲14 ※SSP・C3Cグループ分の売掛金・た な卸資産計47
固定資産	86	154	+68	のれん+41 顧客関連資産+35
資産合計	965	1,136	+170	
流動負債	190	214	+24	買掛金+8 短期借入金+6 ※SSP・C3Cグループ分の買掛金12
固定負債	251	412	+160	長期借入金+140
負債合計	442	627	+185	
純資産合計	523	508	▲14	為替換算調整勘定▲20 非支配株主持分+3
負債・純資産合計	965	1,136	+170	

自己資本比率	54.2%	44.4%	▲9.8pt	
流動比率	461.5%	456.5%	▲5.0pt	

2021年12月期 業績予想



食の領域および食と新たな領域の融合する5つの領域での専門的グローバルソリューションカンパニーを目指す



<着眼点>

1. 食のサプライチェーンのソリューション
2. 食と医の重なる領域のソリューション
3. 食とEcoの重なる領域のソリューション
4. 食と新しいライフスタイルの重なる領域のソリューション
5. Migration Service Business

既存事業はビジネスモデルの再構築と生産性改善に注力し、収益力を強化する。新規事業については既存事業からの派生事業の収益化を目指すとともに、新領域で次世代の事業を創成する

外部環境の想定

GAF

- ◆ 2021年後半から新型コロナウイルス感染症が収束し、徐々に景気回復
- ◆ 外食産業の回復は緩慢ながら、小売業態向け（量販・グロサリー・オンライン含む）の販売は好調
- ◆ コンテナ船運賃高騰・円高基調の想定

農水産

- ◆ データに基づく販売・仕入に注力
- ◆ 海外同様、国内の外食産業の回復は緩慢。小売業態向けの販売は好調を維持
- ◆ 農水産市場での需給の緩やかな逼迫基調は一服、市場価格は低下

国内

- ◆ 三密の対面・イベント販売は引き続き厳しい状況
- ◆ オンライン購買への移行を推進

当社の方向性

1. 新領域での次世代の事業の創成

- 食・医・Ecoの融合部分での事業発掘
- 日本・欧・米・中・アジアといった海外拠点での新規事業創出の仕組みづくり

2. 既存事業の収益力強化

- 現在のマーケット状況に適合した、ビジネスモデルの再構築
- システム導入等による生産性改善

3. 既存事業から派生した新規事業の展開

- 海外メインストリーム向けの商品・営業販路の開拓
- 農水産物輸出の新しい仕組みづくり

既存事業の収益力の強化および新規事業の創出を目的に約39億円を政策投資として実行する

	施策	狙い	金額(経費含む、億円)		
			'20年	'21年	増減
1 事業領域の拡大	◆ 食・医・エコ・新しいライフスタイルの融合部分での新事業の創出	◆ 事業ポートフォリオの多角化	3	8	5
2 既存事業の収益力強化	◆ 商品開発部門の充実	◆ PB化の一層の推進 ◆ 健康志向の商品開発	1	2	1
	◆ SCM・ITインフラ投資	◆ DX・ロボティクスによる販管費・物流費の圧縮	0	5	5
	◆ 組織の活性化	◆ 組織力の強化 ◆ 個人還元型KPIの設定 ◆ 社内コミュニケーション・連携ツール導入によるチームワーク力	5	5	0
3 既存事業から派生した新規事業の展開	◆ 海外現地の販路開拓・マネジメント力の強化	◆ メインストリーム販路の開拓	10	16	6
	◆ 国内農産品の海外輸出の仕組みの構築	◆ 海外市場の成長の取り込み	1	1	0
	◆ 外食向け新サービスの開発(ニューノーマルの食生活)	◆ ニューノーマルに対応した外食の業態	2	2	0
計			22	39	17

前回中計策定時の前提と比較して新型コロナウイルス感染症の影響の長期化といった逆風はあるものの、既存事業の着実な回復と新規事業の加速を実現する

計画前提

新型コロナウイルス感染症の影響からの回復はFY2021年後半（前回中計時はFY2021年前半）
円ドル為替は100円（前回中計時は108円）

(単位：億円)

単位：億円		実績 FY2019	実績 FY2020	前回中計 FY2021	今回計画 FY2021	コメント
全社	売上	1,826	1,684	1,932	1,870	既存事業におけるIT基盤強化・DXのための投資および新規事業への投資を加速
	営利	43	19	25	20	
既存	売上	1,805	1,657	1,848	1,805	既存事業では営業利益を前回中計レベルまで回復
	営利	54	39	48	47(52)	
GAF	売上	1,288	1,163	1,318	1,280	C3Cの買収による効果および各地域での収益力を着実に回復
	営利	45	30	40	40(45)	
農水産	売上	477	458	491	504	国内外営業の強化により着実に収益力を強化
	営利	8	8	6	7	
国内BtoC	売上	39	36	39	38	業績は今年度程度を想定しているが、社内費用の配賦基準の見直しに伴い営業利益が減少
	営利	1	1	2	0	
新規	売上	21	27	84	65	新規事業を一層加速
	営利	▲11	▲20	▲22	▲27	

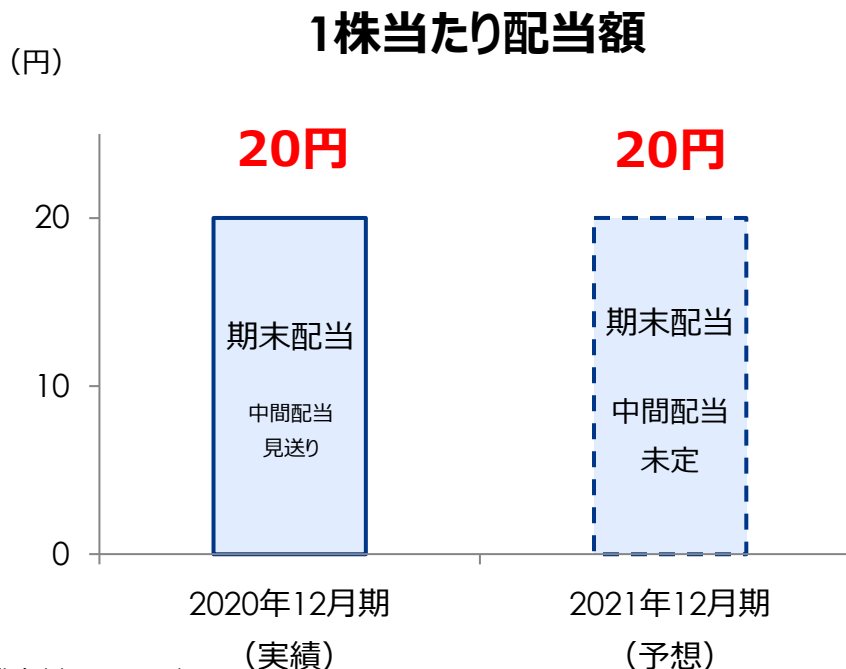
()は政策投資に該当するIT基盤・DX強化のための投資を除いた場合の営業利益。上記内訳は管理上の数字。

株主還元の方針



【方針】

- ◆ 利益配分については、将来の事業展開と財務体質強化のため内部留保を確保しつつ、安定的な配当を継続して実施していくことを基本方針とする。
- ◆ 配当性向を重要な指標とし、每期30%程度の連結配当性向を目安としており、来期の業績予想は純利益 上期 3億円、通期 同10億円を計画。
- ◆ 新型コロナウイルス感染症の収束状況が極めて不透明となっているため、中間配当は未定とする。
- ◆ 2021年12月期の1株当たり配当予想額は、中間・期末配当併せて20円とする。



会社概要



◆「地球それ自体」と「Globalism」を
イメージした2つの球体

- 革新の「赤」+自然の「緑」
- 「より健康で豊かな食生活へのあくなき挑戦の意思」

◆社名の「W」「M」「C」をモチーフとして造形化

【Wisdom】 …(西洋智)

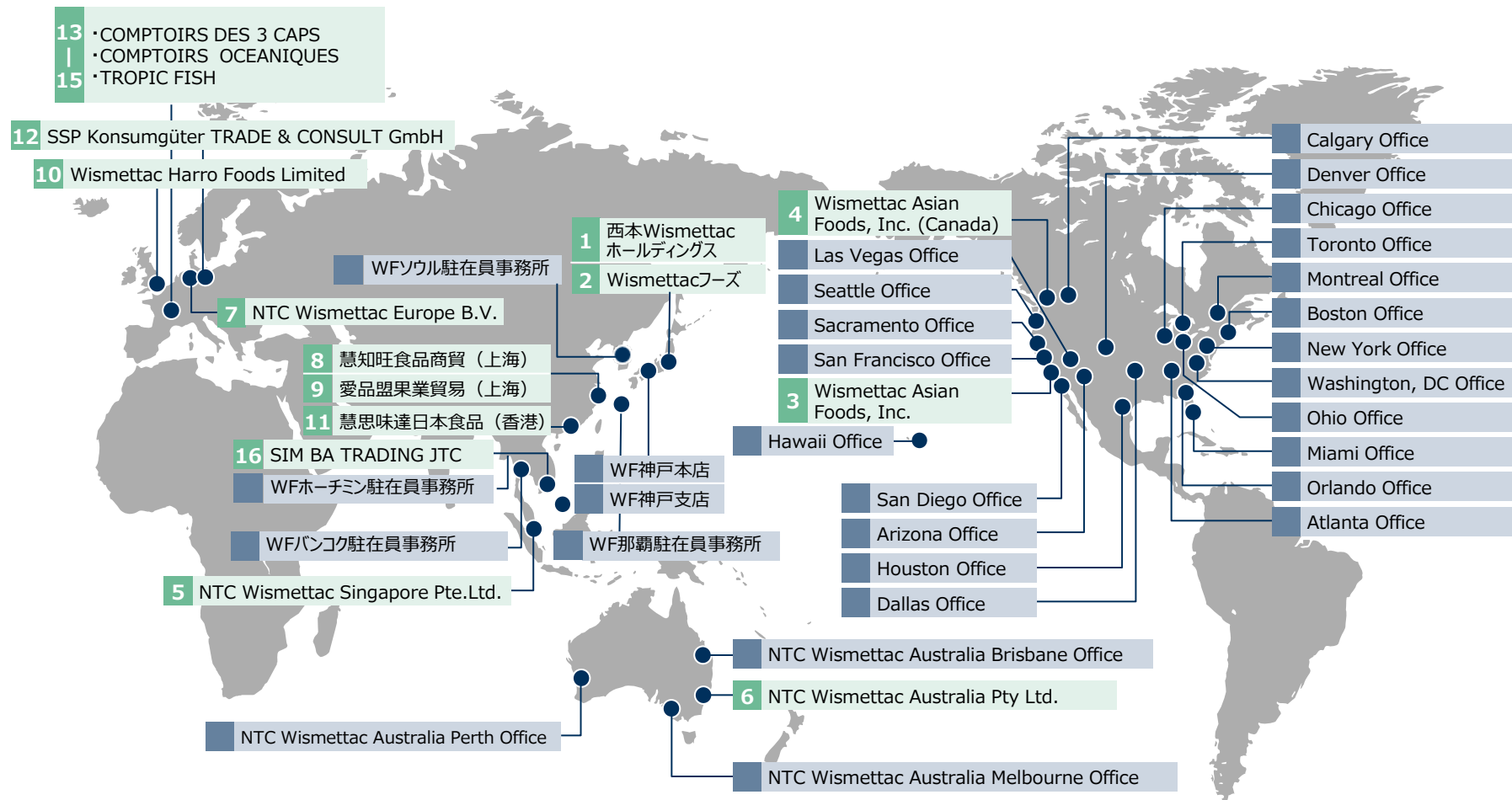
【Metta】 …(東洋智)
(パーリ語：優しさ/思いやり)

【Creativity】 …(価値の創造力)

明治45年（1912年）に創業後、世界市場に食材・食品を供給するグローバル企業へと成長

社名	西本Wismettac (ウイズメタック)ホールディングス株式会社	
本社	東京都中央区日本橋室町三丁目2番1号 日本橋室町三井タワー15階	
創業	1912年5月	
代表者	代表取締役会長兼社長 CEO 洲崎 良朗	
従業員数	1,768名（うちアジア食グローバル事業：1,455人） [2020年12月末時点]	
事業内容	<ul style="list-style-type: none"> ◆ アジア食品の開発及びグローバルでの販売 ◆ 青果物全般(フルーツ、野菜、その他加工品)の輸入販売、食品メーカー並びに 外食産業向けの食材の供給 	
子会社、関連会社	子会社15社、関連会社1社	
拠点所在地	世界47か所（うち北米拠点：24か所） 日本・米国・カナダ・シンガポール・オーストラリア・オランダ・英国・ドイツ・フランス・中国・ 香港・タイ・ベトナム・韓国	
連結売上高	1,684億円 [2020年12月期]	* 海外売上比率67.8%
連結経常利益	17億円 [2020年12月期]	
自己資本比率	44.4% [2020年12月期]	

全大陸で事業展開しており、グローバルでは北米、欧州、豪州、アジアで47拠点を有する。
 そのなかで、北米（アメリカ・カナダ）は24拠点を有し、売上の過半以上を占めるエリアとなっている



図表中の“WF”は“Wismettacフーズ”の略

注意事項

本資料は、西本Wismettacホールディングス株式会社および関係会社（以下当社）の財務情報、経営情報等の提供を目的としておりますが、内容についていかなる表明・保証を行うものではありません。

本資料に掲載されている当社の計画や戦略、業績の見通し等は、将来の予測等に関する情報を含む場合があります。これらの情報は現在入手可能な情報に基づくものであり、経済動向、業界での競争、市場需要、為替レート、税制や諸制度等に関わるリスクや不確実な要素を含んでいます。従って、将来、実際に公表される業績等はこれらの種々の要素によって変動する可能性があり、当社はこれらの情報を使用されたことにより生じるいかなる損害についても責任を負うものではありません。なお、当社は、新たな情報や将来の事象により、本資料に掲載された将来の見通しを修正して公表する義務を負うものでもありません。

資料の作成には、当社は細心の注意を払っておりますが、掲載した情報に誤りがあった場合や、第三者によるデータの改ざん、データダウンロード等によって生じた障害等に関し、当社は事由の如何を問わず一切責任を負うものではないことをあらかじめご了承ください。

本資料は、投資勧誘を目的にしたものではありません。実際に投資を行う際は、本資料の情報に全面的に依拠して投資判断を下すことはお控えいただき、投資に関するご決定はご自身のご判断で行うようお願いいたします。

【お問合せ先】

西本Wismettacホールディングス株式会社
経営企画部

TEL : 03-6870-2015

